



能登やさしいこめづくり情報

中干し編

中干し開始は田植え1か月後！

令和8年5月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
J A の

作付け再開ほ場における水管理の重要ポイント

- 1 作付け再開ほ場では、有機物の分解等によりガス湧きが発生しやすいため、田植え1か月後の中干し開始までに**田干しを数回実施**
※「2 今後の水管理について」を参照
- 2 代かき後に漏水を確認したほ場は、**強い中干しを避け**、大きなヒビ割れにならないよう適宜入水する
※「3 中干し作業について」を参照

1 生育・気象概況

5月以降、気温は平年よりやや高く、5月上旬に田植えがされた苗の活着は良好です。今後1か月の気温は、平年よりかなり高くなる予報が出ているため、分けつの発生が旺盛となり、茎数過剰となる場合もあります。

ほ場の状況にあわせ、「**適期中干しの開始**」と「**ほ場周辺の除草の徹底**」に努めましょう。

2 今後の水管理について

①浅水管理

中干し開始までは、2~3cmの浅水管理で分けつの発生を促進しましょう。

②田干しの実施（ガス抜きのため）

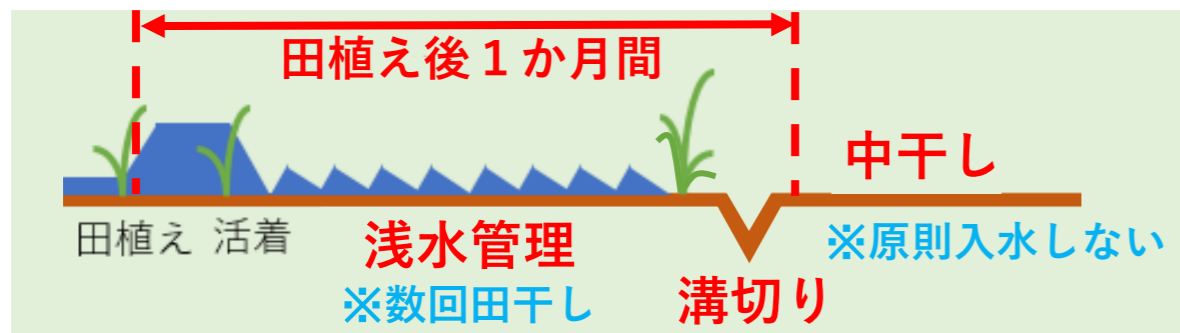
初期生育が停滞する原因の一つとして、ガス湧きや藻類の繁茂が挙げられます。これらは、田植え後1か月間に**数回水を抜いて乾かす（田干し）**ことで、発生を防止することができます。

③溝切りの実施（中干し効果を高めるため）

中干し開始前に溝切りを行うことで、均一な水管理による生育のばらつき抑制、中干し以降の通水・排水作業の効率化を図ることができます。

（目安）10条に1本の割合で溝を切る

（留意点）水が溜まりやすい部分には追加で溝を切り、額縁等の溝と連結する



3 中干し作業について

中干しの効果・意味

- ・無駄な分けつの発生を抑制 → 乳白粒やくず米の発生減少
茎が強く太くなり、倒伏軽減
- ・土に酸素が供給 → 根張り向上 → 収量・品質向上、倒伏軽減
- ・地耐力が向上 → 田面が固くなり、コンバイン収穫の作業性向上

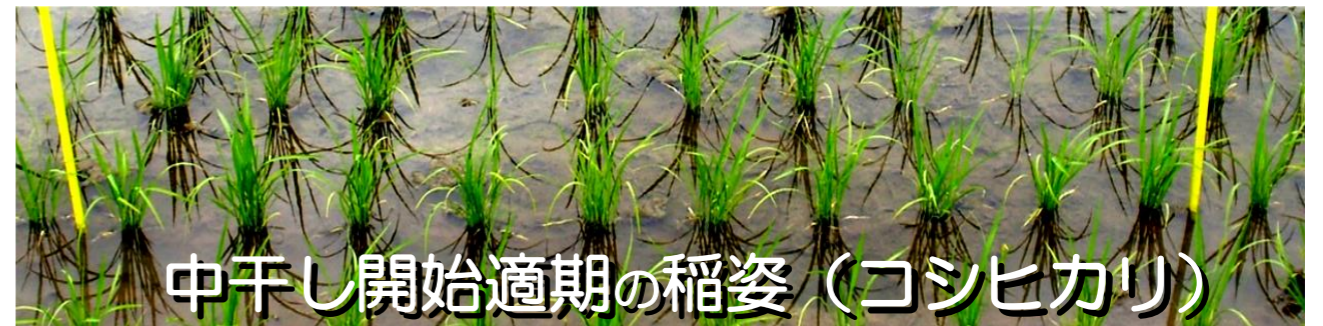


乳白粒

① 中干しの開始適期

✓ **田植え1か月後を目安に開始**

※ 5月20日以降に田植えを行った場合、田植え20~25日後を目安に、**茎数を確認**のうえ開始しましょう。



② 中干し開始・終了の目安（5月上旬田植えの場合）

品種	開始時期		終了時期	開始・終了時期判断の注意点
	1株あたり茎数	平年		
コシヒカリ	15本	6/6頃	7/10頃	<ul style="list-style-type: none"> ・田植え後の水管理により中干しの開始時期は異なります。分けつの発生状況を確認し、中干しを開始しましょう。 ・コシヒカリは中干しを1か月継続しましょう。 ・中干しの開始・終了時期は左記を目安にして下さい。 ・中干しは幼穂形成期まで継続します。
能登ひかり	13本	6/8頃	6/30頃	
ひやくまん穀	13本	6/10頃	7/15頃	
(根 掘)	目標穂数の70%時点 (目標穂数) コシヒカリ 21本 能登ひかり 18本 ひやくまん穀 18本		幼穂形成期	

③ 中干し期間中の水管理

✓ 中干し期間は**原則、入水しない**

✓ 田面に大きなヒビが入る場合は、**一時的に入水→自然減水**

※漏水ほ場では、**強い中干しを避け**、ヒビ割れが生じないように適宜入水しましょう。

4 除草について

ほ場周辺・ほ場内の除草徹底で
カメムシ被害を未然に防止!!



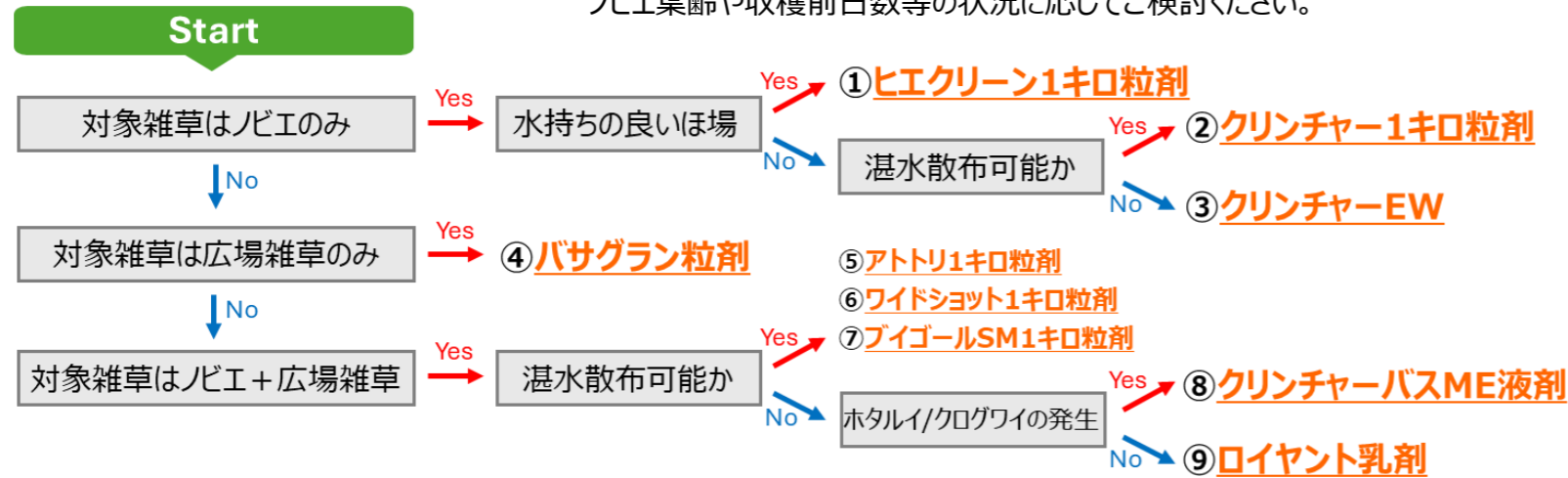
①ほ場周辺（畦畔、農道等）の除草

- ✓ 6月中はほ場周辺の草刈りを徹底（カメムシの隠れ場所・発生源を無くすため）
- ✓ 一斉草刈り強化週間（7月4日(土)～10日(金)）に仕上げの除草を実施
- ✓ **7月10日以降は除草しない**（畦畔のカメムシが本田へ侵入するのを防ぐため）

②ほ場内の除草

＜パターン別おすすめ除草剤＞

※本フローチャートは判断の目安を示したものです。
 びエ葉齢や収穫前日数等の状況に応じてご検討ください。



除草剤名	成分回数	10 a 使用量	留意点
①ヒエクリーン1キロ粒剤 (無人航空機散布可)	1	1kg	湛水散布（7日間止め水） 移植後15日～びエ4葉期（収穫45日前まで）
②クリンチャー1キロ粒剤 (無人航空機散布可)	1	1～1.5kg	湛水散布（7日間止め水） 移植後7日～びエ4葉期（収穫30日前まで） ※1.5kg散布時は移植後25日～びエ5葉期（収穫30日前まで）
③クリンチャーEW 液 (無人航空機散布可)	1	100mL	湛水散布又は落水散布 移植後20日～びエ6葉期（収穫30日前まで）
			無人航空機による散布 移植後20日～びエ4.5葉期（収穫30日前まで）
④バサグラン粒剤	1	3～4kg	落水散布 移植後15日～収穫45日前
⑤アトトリ1キロ粒剤 (無人航空機散布可)	1	1kg	湛水散布（7日間止め水） 移植後14日～びエ4葉期（収穫45日前まで）
⑥ワイドショット1キロ粒剤 (無人航空機散布可)	2	1kg	湛水散布（7日間止め水） 移植後15日～びエ4葉期（収穫45日前まで）
⑦ブイゴールSM1キロ粒剤	3	1kg	湛水散布（7日間止め水） 移植後15日～びエ3.5葉期（収穫60日前まで）
⑧クリンチャーバスME液剤 液	2	1000mL	落水散布又はごく浅く湛水し散布 移植後15日～びエ5葉期（収穫50日前まで）
⑨ロイヤント乳剤 液	1	200mL	落水散布又はごく浅く湛水し散布 移植後20日～びエ5葉期（収穫45日前まで）

※地震の影響で水が溜まりにくいほ場では、**落水散布可能な除草剤**を検討してください

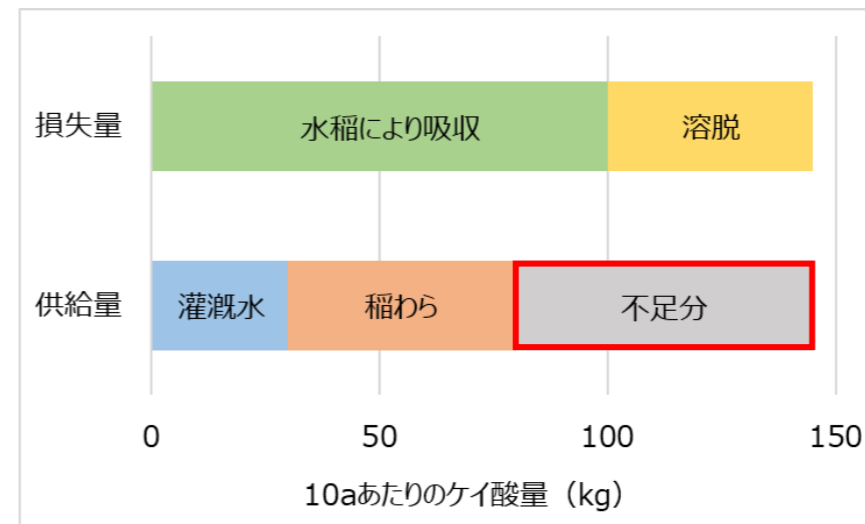
※ほ場内の化学合成農薬成分回数は**原則4成分以下**に抑えましょう

5 中間追肥の施用について

- ・近年は登熟期の高温や日照不足により、品質低下のリスクが高まっています。
- ・気象変動に強い稲づくりのポイントは、根をしっかり作り、活力を高め、維持することです。そのためには、「中干し」により、働く根を作るだけでなく、**土壌に必要な成分を補うことが重要です。**
- ・基肥一発肥料だけでは稲の生育に必要な成分が不足するため、**6月中旬に「PKけいさん」を必ず施用**しましょう。

※基肥に「BBけい酸パワー・コシー発くん」を施用した場合は不要

肥料名	施用時期	施用量	効果
PKけいさん	6月中旬	40kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 稲体が強固になり、病害虫抵抗性、耐倒伏性が向上 ➢ 根張りや受光態勢が良くなり、登熟が向上



✓ 水稻は10aあたり600kgのコムを収穫するために、約100kgのケイ酸を吸収します。
(左図参照)

✓ 不足分を土づくり資材や中間追肥で補給しないと、毎年ケイ酸成分が不足し**減収につながります。**

6 その他注意事項について

- ① 補植苗はいもち病の発生源となりますので、早急に処分してください。
- ② コシヒカりは、能登米栽培基準を満たすよう農薬を使用してください。
- ③ 例年より多く農薬を使用する場合は最寄りのJAにご相談ください。

能登北部営農推進協議会
公式LINEアカウント開設!

営農情報を発信していきますので
QRコードを読み込んで友だち登録をお願いします!

